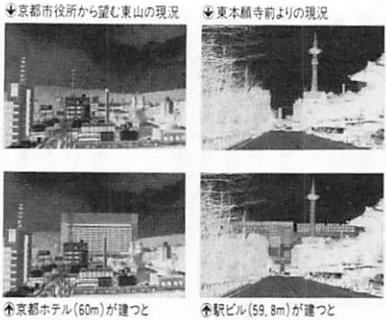


## 社会

### 賛成ですか、反対ですか。 京都が、変わる……?

社団法人・京都デザイン協会は、この4月8日に「京都デザイン賞」受賞の5作品を発表した。特に我々一般大衆にも興味深いのは、京都芸術短期大学助教授（ビジュアルデザインコース）の、奈良磐雄氏の作品「コンピュータグラフィックスによる都市景観研究」である。左の写真は、氏の受賞作のうち、「新JR京都駅ビル」と「京都ホテル」の2組。いわば「使用前・使用後」だが、コンピュータで処理された画像はいよいよリアルだ。



双方の高層ビル建設構想に対して徹底的反対の意志を表明していた京都仏教会は一体どんな思いでこの奈良氏の作品をながめていることだろう。そして、例えばこの駅ビルをあなたはどうか御覧になりますか？ 最後になりましたが、奈良さんを含めて「京都デザイン賞」受賞の皆さん、おめでとうございます。

## 政治

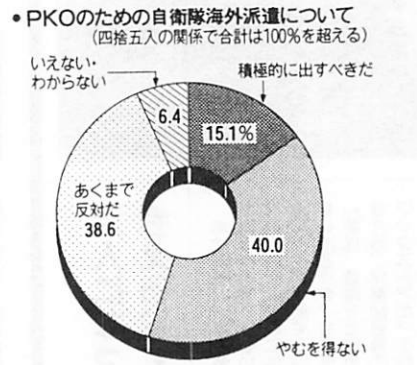
### PKO法案の行方 日経の世論調査より

国会会の最大の争点になっていた国連平和維持活動（PKO）協力法案。あなたはどのような意見をお持ちですか？ 6月10日付日本経済新聞の「日経一万人電話調査」によると、カンボジア和平などPKOに協力するための自衛隊海外派遣については、「各国との関係から、派遣はやむを得ない」が最も多く40・0%を占め、「自衛隊を海外に出すことはあくまで反対だ」の38・6%を上回った。

昨年11月同紙が実施した調査では、自衛隊の海外派遣を盛り込んだPKO協力法案に関して「成立は慎重に」が62・2%、「成立させるべきでない」が21・2%にそれぞれ達し、「成立を急ぐべきだ」は9・7%にとどまっていた。この6月と昨年11月の調査のうち、それぞれ最も多数を占めた意見「やむを得ない」と「成立は慎重に」は双方ともあいまいな選択肢で、何より質問内容が変更されているため、PKOに対する国民のコンセンサスがいよいよ固まりつつあるという判断は厳密には下せない。

こういう調査で最も肝心なのがその調査方法だが、同紙はその方法を明記しており、公正さにおいて調査対象は無作為に抽出されたと信じられる。よって、この調査からは、PKOに対する国民の意識は積極的になりつつあるとは言えないまでも、法案が可決され

ても仕方ないという意見がどうも多い、とは判断できるようだ。それは同時に同紙によって調査された宮沢内閣の支持率が、前回3月調査の22・3%から30・2%に上昇していることから裏付けがとれる。しかし、法案は成立するにいたったが、実際に派遣される自衛隊員はどんな感慨を抱いていることだろうか？



## 経済

### 金融の自由化時代—日本に金融機関の倒産ナシ?

この4月末に都市銀行2行に関連する合併が発表された。

①三菱銀行と設け関信用組合 銀行は店舗の多い少ないによって預金の規模（Ⅱ業容）が決まるとい傾向が強いので、三菱銀行の店舗が都内に

8店舗増えるというのは同行にとって利点になることはまちがいないが、そのための合併費用約5億円と同信組の株式取得費1億円強というのは、実際のところ三菱側にはどれくらいメリツトなのだろうか。

利用者の側から考えると、一般個人客はどの銀行でも選択は自由なので、三菱が変わることはネームヴァリュアが上がった程度の思惑しかないだろうが、法人先にとっては問題である。信組のお得意様は法人といつても中小企業、特に小企業が多い。対して都銀となると超優良企業がその取引先だ。設け関信用組合の取引先だった小企業は、したがって三菱の手形や小切手を使うことは大変難しい。

②三和銀行と東洋信用金庫 あの家空預金証書事件の東洋信金は、それにより経営危機に陥り大蔵省もとりこんでその対処法が検討されていた。計画では、偽造預金証書をつかんだノンバンク、日本興業銀行、富士銀行が一部債権を放棄、東洋信金の25店舗は大蔵府下の信金にその営業権を売却し三和が合併するというものだが、興銀、全国信用金庫連合会、日銀がそれぞれ500億円、100億円、200億円の支援金の提供、三和の買収資金の300億円が見込まれている。

金融の自由化で先行き見通しの暗い地域金融機関は都銀に吸収されるしかないのだろうか①。また、日銀の預金保険機構の出勤（200億円の支援金）は、日本の銀行が倒産しないということの象徴なのだろうか②。

AIR TICKET & ORIGINAL TOUR

# ピーがんな旅。



●ネットワーク 全国1000店舗のニュー・ヨーク・ロックス・サン・クラブ・スコット・ニューヨーク・ドール・ス・セント・フランシス・ソール

# H.I.S.

(株)エイチ・アイ・エス  
(運輸大臣一般第724号)

〒604京都市中京区河原町通薬師上ル奈良屋町293清水屋ビル6F

075-241-2528

営業時間/9:30-17:30 (土曜15:30) 日・祝休



お気軽にお立ち寄り下さい。

スポーツ

## タイガース・ニューウェーブ・シンドローム(その2)

夢ならばどうか覚めないでいてほしい。もう落ちるやろ、もうこれであらんやろ、と絶えず不安を抱きながらも、しかし謙虚にラブコールを送り続けてきたタイガースファンも、近頃では満面に笑みを浮かべながら臆面もなくあの「優勝」の2文字をちらつかせるようになった。凶に乗ったもんだと横で苦虫を噛み潰し、焦燥の色を隠し切れないはずのジャイアンツファンも最近の巻き返しぶりに希望の灯を瞳に映し出している。オプティミストのジャイアンツファン曰く、「タイガースは上で1勝1敗を繰り返しているがいい。そのうち我がジャイアンツは3勝1敗ペースで7月末には虎を捕える」一確かにジャイアンツは上昇気運なのだ。ただしもつとオプティミストのタイガースファンはこう語る。「1勝1敗で1位

選手名	球団	打率	本塁打	打点	得点	盗塁	犠打	犠飛	併殺打	三塁打	四球	三振	凡退	試合数
投手	田中義典	0.19	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
投手	石川 遼	0.12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
投手	藤田 尚	0.12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
投手	和田 正	0.09	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
投手	岡本 洋	0.08	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
投手	池田 久	0.07	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
投手	山崎 隆	0.06	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
投手	山本 昌	0.05	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
投手	山田 大	0.04	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
投手	山田 大	0.03	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
投手	山田 大	0.02	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
投手	山田 大	0.01	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
投手	山田 大	0.00	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1

と2位を繰り返しているというところは、やな、……(残り試合を計算して)……130試合目は1位っちゃうのこちゃ。楽天にかけては負けていない。これほどまでタイガースファンを活気づかせていることを最も顕著に表しているのは、見出しにもあるようにやはりニューウェーブの台頭であろう。左のオールスターゲームのファン投票中間発表(6月12日現在)を見れば一目瞭然(資料:日刊スポーツ)。昨年は真弓1人だったのが今年は大躍進が期待できる。投手枠の上位3人を見よ!内野手を見よ!そして亀山の得票数を見よ!!

文化

## 91年の出版概況 FAMEもがんばります

さくらももこ『もものかんづめ』ビートたけし『だから私は嫌われる』室井滋『むかつくぜ!』柴門ふみ『恋愛論』91年に書籍の中で気を吐いたのがこれらの作品だ。軽読書化の傾向がうかがえる。出版物全般(書籍・雑誌)では、総販売金額は、2兆2785億円で前年比7・0%の高い伸び率を示した。この伸び率は過去10年において最も高い伸びで、単価の値上げがその最大の要因と思われる。書籍においては、話題性の高いものから多少値がはたても消費者は購入する傾向があったので、出版社も思いきった値段設定ができた。例えばそれは本屋の文庫コーナーをのぞけば合点がいくだろう。文庫全体の伸びは確かに頭

打ちだが、それは状況が悪いということと意味しているのではなく、文庫市場が成熟してしまっているということ。1000円台の文庫もゴロゴロしている。その他特筆すべきは「宮沢りえ写真集のE.M.I」。発売後1ヵ月でミリオンセラーを記録した。雑誌においては、男性ビジュアル総合誌が不振だが、全般的には月刊誌、週刊誌ともに好調である。創刊点数の前年比10点増1165点という数字がそれを現わしている。弊誌もおかげさまで本誌掲載資料以上の2ヶ台の成長をとげています。今後とも誌面の充実に努めますのでよろしく願います。(編集部)

	〈書籍〉	〈雑誌合計〉	〈月刊誌〉	〈週刊誌〉
出版点数	3万9,996点(103.4)	2,388点(102.8)	2,303点(102.5)	85点(109.0)
発行部数	13億7,740万冊(97.4)	46億4,172万冊(104.8)	27億3,234万冊(105.0)	19億938万冊(104.4)
発行金額	1兆3,970億円(106.5)	1兆7,195億円(108.0)	1兆2,670億円(108.0)	4,526億円(107.7)
平均定価	1,014円(109.3)	370円(102.8)	464円(102.9)	237円(103.0)
販売部数	9億575万冊(99.4)	36億9,635万冊(103.0)	20億7,282万冊(102.4)	16億2,353万冊(103.8)
販売金額	9,444億円(109.1)	1兆3,341億円(105.6)	9,524億円(105.0)	3,816億円(106.9)
部数返品率	34.2%(-1.4)	20.4%(+1.4)	24.1%(+1.9)	15.0%(+0.5)
金額返品率	32.4%(-1.6)	22.4%(+1.7)	24.8%(+2.1)	15.7%(+0.7)

\*1( )内は前年比  
\*2資料/「ブレン」No7